

個人累積システムPSの紹介

教材活用シリーズ 第109回

☆日図協加盟出版社の発行している教材について、実際の授業における活用例、より効果を得られるポイント（場面・方法）などを紹介します。

一般財団法人 応用教育研究所
『個人累積システム（PS）』

ほりぐち てつお
堀口 哲男
（一般財団法人 応用教育研究所）

1 はじめに

新学期、学級担任（教科担任）の変更やクラス替えなどが行われ、教師と児童・生徒は新しい出会いを迎えることとなります。

その際に学校現場では、申し送りや指導要録などで次年度の教師に情報が継承されることとなりますが、情報の伝達には難しさが伴います。さらに、小・中学校間ともなると、継承される情報は、特定の児童・生徒に偏ったり、伝達内容も限定的になるのが実情と聞きます。

このような情報共有・継承の場面での活用を想定した教研式個人累積システムの紹介をします。

2 個人累積システム (Portfolio System) 略称PSとは

教育・心理検査で得られた情報を蓄積するツール「個人累積システム (Portfolio System) / 略称PS」を開発し、平成26年から学校で利用できるようになりました。PSは、教研式の標準学力検査NRT、CRT、Q-U、AAIなどの個人データを累積し、経年比較資料を作成できるソフトウェアです。図書文化社のホームページからダウンロードすることができます。

注：PSを利用するには別途検査毎にCDデータ

3 PSで作成できる資料

本ソフトウェアでは、実施いただいた教研式教育・心理検査について、代表的な数値を累積したり、個人毎に検査の結果をまとめることができます。具体的には、次の3種類になります。

① NRT・CRTの個人データの累積

毎年の検査結果を取り込むことにより、学力の推移を把握することができます。9年間の個人比較資料が作成可能です。

次の図はNRTの累積個人表です。この例で



▲個人累積システム（PS）の初期画面

が必要になります。NRT・CRTの場合は、付属の「User's Disc」が利用できます。

